



准教授

大泉 義一

オイズミ ヨシイチ



教育人間科学部 学校教育課程 美術教育講座
その他 東京学芸大学大学院教育学研究科連合学校博士課程
大学院教育学研究科 芸術系教育専攻 美術教育分野
oizumi@ynu.ac.jp
http://www7b.biglobe.ne.jp/~oizumi-labo/

【研究概要】

子どもたちは今、自分の感じていることに自信をもてずに生活しているのではないのでしょうか？現代社会における子どもたちのそうした状況を鑑みて、遊びながら自分の感覚（五感）を確かめられるようにデザインされた〈アートツール〉を開発し、それを携えて子どもの居る様々な場所（公園、商業施設、美術館、学校、震災避難所など）を巡回してワークショップ・プログラムを提供しています。

【アドバンテージ】

『アートツール・キャラバン』は、子どもが感覚（五感）を働かせて遊ぶことから能動的で協働的な表現活動を生み出す〈あそび場〉です。参加した子どもたちからは「絶対にまた来てね」という感想をもらったり、保護者の方から「世の中にもっともっとこうした機会があるといいですね」というご要望をいただいたりしています。アートを通じた教育という機会を、学校など特定の場に限定せず「子どもが居るあらゆる場」にひらいていく取組みであり、本プロジェクトを運営する教育を志す若者たちの実践の場でもあります。

2011年には、キッズデザイン協議会より、キッズデザイン賞（アクション・フューチャー部門）を授与されています。

【事例紹介】

2010年からこれまで、以下の場で実践を展開してきました。

茅ヶ崎市立茅ヶ崎小学校、神奈川県立近代美術館葉山、横浜市民ギャラリーあざみ野、横浜国立大学附属鎌倉小学校学校開放「鎌倉なんかナレ」、『TRESSA 横浜』（ショッピングセンター）、横浜市立駒岡小学校、『第7回 ワーク

ショップ・コレクション』、東日本大震災避難所・川崎とどろきアリーナ、横浜市立坂本小学校学校開放『ふれあい教室』、神奈川県立上溝南高等学校文化祭、川崎市市民ミュージアム連携企画

今後、地域開発プロジェクト、住宅メーカーとのコラボレーション等いくつかの企画・実践を予定しています。



■ 相談に応じられるテーマ

商業施設等における子ども向けワークショップ・イベントの企画・運営企業との協働による子ども向けワークショップ・プログラム、玩具、教具、教材の開発

■ 主な所属学会

日本デザイン学会
美術科教育学会
大学美術教育学会
造形教育センター

■ 主な論文

『『子どものデザイン』からみえてくるもの』「日本デザイン学会特集号・Vol.20-3・No.79, 日本デザイン学会」2013年

『a meeting place II』「(作品発表)ギャラリー創」2013年

『教育学研究における『つくる』ことの意味』「教育デザイン研究 横浜国立大学教育デザイン研究会」2010年

『『子どものデザイン』の教育的可能性に関する試論—

＜感覚＞と＜イメージ＞から創造的問題解決へ—」「美術教育学第31号, 美術科教育学会」2010年

『造形によるコミュニケーションのもつ教育的意義—鑑賞学習に対する提言—』「美術教育学第24号, 美術科教育学会」2003年

■ 主な著書

『感じて動く—鑑賞の活動化—』日本文教出版, 2013年

『ベーシック造形技法』建邦社, 2006年

『小学校学習指導要領図画工作解説』文部科学省(作成協力者), 2009年

『『子どものデザイン』の原理と実践』日本文教出版, 2016年刊行予定